まき
発行所
西蒲原郡
巻町中央公民館
編集人　北川都司
印刷所　北洋印刷株式会社

正月いろいろ

―各地にひろう―

長い歴史の中に、いつとはなしに根を下した習慣は、或る時代に於ては立派な制度であり「ありがたいしきたり」であつた。

それが長い習慣だ…」と簡単に片づけられる間はまだ罪がない。

世の中は流れる水のように変つて行く。

新しい時代には新しい要求に応じて、いろいろな事柄が改善されなければならなくなる。

所が、そこに横たわつている習慣というものが、大きな根を張つて動かない場合がある。

此の頃旧正月についていろいろな批判が出るようになつた。

「正月＝新旧何れがよいか！」これは古い習慣が新しい社会に幾つかの矛盾を現わして来たことからでなかろうか。或は世の中に相当な実害を与えて、いろいろな悩みや苦しみが訴え出されているとも云える。

こうして旧正月がともすると一つの因習になり変りつゝあることである。

明るい社会を作るには蔭になつている因習をかなぐり棄てることである。

さてものを改めることになれば、是、非いずれも尤もなようであるけれども、「よりよくする」という前提に立てば当然変らなければならないことであろう

只農作業の面から見たり、社会生活のつながりの面から見たりする場合、正月を改めることによつて、これらも「よりよく」改善されるように考えられなければならない。――きつと考えられるであろう。

（N生）

○　○

ある役所に通うKさんの奥さんは、一月の三ケ日と十五、六日が主人の休みだつたものだから、二月は――大体に休みがないし経済も許さないから、しかし東京からのお客でもあればその期間だけは特別、急いで餅をつく事もあります。町として何んとか改善出来ないものでしようか、ここ二、三年もすると子供が承知しなくなるでしようから家でも新正月と旧正月をやらなければと――心配顔。

○　○

松野尾小学校に通う校長先生のお宅での御意見では（幸い奥様も同席）

――そりや私、新正月にきり替るべきですよ二度もあるなんて、不経済なことですと――お父様は酒が飲めるから二度の方を賛成されるのじやないかと笑つておられた。これについて先生は――私だつて新正月がいいに決つているさ、しかしこの辺は風土的環境から仲々改めるということは至難ではないか、農家では機械化によつて仕事の切上げも早くなつてはいるようだが、庭仕事などきまりをつけてからゆつくり正月をやるということや、気象の状態からいつても一月より二月の方が雪が多いし、落付いた正月ということになるとやはり二月の方がよいように思う。私は一回になることならどちらでもいいんだが、二度やらなければならない正月問題をみんなで研究し自覚を崇める以外にないと語つてくれた

○　○

毎日燕通いのTさんのお宅では、一月三ケ日と小正月三日間は工場も休みなので仕方なしに休み、二月は二月で学校へ行つている子どもたちもいるので三ケ日と小正月三日間は欠勤して正月をするという。

同じ燕通いでも若いMさんの奥さんは、一月三ケ日は休みだつたので、それが正月だつたのでしようね。それ以外は何もないし、またしませんと、至極あつさりしていられる。

父娘とも新潟通いのSさんでも、正月は会社が休みの一月三ケ日だけ。二月は休みでもないし正月なんかしない。餅は――あるから食べるだけとすましていらつしやる。

この方々二人にとつては、正月は年夜とせいぐ〳〵三日だけで充分のようだ。

（S）

○　○

越前浜の雑貨、酒類たばこなど商つているSさんのお家で伺つた角田の状況です。

この辺では新正月など全然考えていないし又考えられないと前おきして次のように語つてくれた。

出稼者が大体一月中旬から下旬にかけて帰つてくるものだから、そしてこの頃になると各部落とも何か活気が満ち正月気分となるし農家でも新正月だと仕事が中断されること、それよりは仕事の終つた二月正月をゆつくりたのしんでいるようです。それに報恩講がある。ここの報恩講は十二月二十七、八日でこれが部落をあげての行事であることなどもその理由の一つでしようか、しかしこの部落の経済状態がよくなり出稼に出なくとも自活出来たら新正月もできるようになるかもしれないと

○　○

旧正月を尊重する。然し別に新正月運動盛んなりし現在水をさそうなどと野暮な考えはないから断つておく。

とかくこの種の運動は一般に的外れであるから竜頭蛇尾に終ることが多いというのは腹と口が違うからだ。悪口を云えばデマカセだ。

二、三十年前にも随分派手にやつたらしい。飽きたためかどうかその真偽の程は知らぬが中途半端に終つているそんな事実を知つているから今更口に出すのも滑稽だが頼まれれば仕方がない。第一正月々々とまるで仇敵のようにいうがお盆の問題は別かどうか、お盆だけ八月にしておいて正月のみを云々するのは俗にいう片手落ち。

というのは旧正月は現在の農業形態の中に融け込んでいるためだ。よく新正月を主張される方は農業の機械化を引合いに出されるが、そんなに昔と変つたかどうか、むしろ十二月一月は農村の副業としての藁工業は昔より重要だし土地改良だつて盛んだ。雪の降らぬ時期にウンと稼いでおくというのも人情だ。第一正月などいつやろうが全く勝手じやないかその生活環境によつて各々都合のよい時すればよい。どうにも仕事の出来ぬ二月にゆつくり休むのは自然というものだ。儀式的なものは一月でもよいが本質的な正月は二月がいいただ問題は学校等との関係だが支障のない限り同調してもらいたい勿論農業形態が変れば話は別、たゞ実態を無視して物事をキメてかゝるのは子供じみていて聊か頼りない。

（漆山農業町田高作）

巻町教育委員会

さる十二月六日の定例会で篠沢角田公民館長辞任に伴う後任館長に倉沢越前小学校長が任命された。

社会教育委員

去る一月九日巻町社会教育委員は巻町中央公民館に会議を開き、活動方針など協議した終つて県社会教育主事増井悌三郎氏を迎え研修会を開いた。

砂丘

▼思い出しても痛ましいあの弥彦事件が、アメリカの元旦の新聞のしかも第一頁に大々的に報道されたという。

▼世界をつなぐ科学の偉大さに驚く。

▼ところが、惨ましいあの事件の批判は…

▼猿（モンキー）の年を迎える喜びと、幸福の菓子（福餅）を求めて雑踏したお伽ぎの国日本、迷信の国日本、變性豊かな日本民族の一事件という印象で書き続けられたという。

▼弥彦事件が、我々の最も身近な問題なだけに、その批判の程度に憤りを覚える。

▼然し憤りを發する前に我々は自らを見つめなければならない

▼迷信の世界―因習の世界の中には、暗やみに手探りしているような生活が多い。

▼文明という言葉が、対蹠的な明るさを持つことも道理である

▼時恰も旧正月、諸々の行事が行われているが、明るい正月が科学に根ざした文化的な生活でありたい

私はこう考える

かく望む 新年度予算

合併二年目の巻町歳出歳入予算がいよいよ編成されようとしています。

昭和三十一年度の当初予算編成に際し、今年の予算はかくありたい……。

あなたのこれについての御考え又御意見などおきかせいただきたくお願いいたします。

櫛浦直衛 潟頭

一、牧支均衡の原則を厳守して欲しい

（赤字財政は真平）

二、外部の力に迷わず何処迄も町長の予算たること

（信念第一主義）

三、町費多端という大義を教育費に寄せぬこと

（弱い者いじめは不可）

米原喜司 竹野町

生活は生産より生れる町の予算も生産力の如何によつて生れる、生産増強に重点を置き重点的予算編成を望む。予算編成に当り産業計画の樹立が急務ではないか。

町政のあらゆるものが計画の頂点に向つて前進するところに町の発展が短時日に達成が出来ると思う。今年度は鑑花的予算の各部門から提出の何割引と言う事は納得が行かぬ止めていただきたい。農家経済は国がさわいでいるような状態である。国が唱えている新農村建設計画のような土地に合致する生産増強建設計画を樹立し、計画に基き重点的な予算の編成を願いたい。

笛木五百 中郷屋

政治的なこと特に予算編成などの知識に乏しい私はこれというまとまつた考えはもつていませんが、予算編成に当つての基本的な線としてこんなことを考えて下有数の赤字町解消の意味で町発展の線に沿う最少限度の線にとどめて頂きたいが、校舎が狭隘を告げて教育力がいちぢるしく阻害されているような学校は実情を調査され次代を背負う生徒の将来を考えて早急に校舎の増築、特別教室建築の予算を挙げて頂きたい（例巻中学校）

(1) 町部 村部と徒らに予算の獲得に専念せず大きく発展を期するためには先ず何をなすべきかという事業の年次計画と本年度の重点的事業を考えて編成して頂きたい。

(2) 各種事業計画は県と村部を包含し、村部又地域差が大きい以上連合体の陥入り易い行事中心から指導性を打出す事が現実の緊要事だと思う。一例を挙げれば往時の弁論は「青年の主張」に変り産業部は4H方式に移向しつゝある。

(3) 老朽校舎の新築も結構ですが、校舎が狭隘を告げて教育力がいちぢるしく阻害されているような学校は実情を調査され次代を背負う生徒の将来を考えて早急に校舎の増築、特別教室建築の予算を挙げて頂きたい（例巻中学校）

佐々木義衛 山島

一、六ケ町村合併により旧巻町以外の各村部は村役場が支所と変り合併により不便と不自由だけであります

二、旧村部の不満を最少限にする如く細心の注意の上予算を編成していただきたい

三、河治町政の初年度とも考えます。巻町発展のため町長さんの笑顔のように円満なる町造りをお願い申上げます

小林清一 巻一区

町村合併第二年度の実効を挙げるため、先ず新生巻町の交通網の整備に主力を置きこれに伴うバス、並びにやがて開通する白新線がもたらす影響を考慮し、今後の巻町発展に処する基盤を作るための予算措置をとることが望ましい。

又教育、文化、衛生施設をはじめ観光地として各般に亘る施設の拡充整備は勿論、あらゆる面に部落意識を排底して全地域を一本化し更に市への飛躍のため近郊町村の合併に最後の努力を傾注すべきと考えます。

以上の点を主眼とした拡大均衡予算の編成を望みます。

池浦光太 茶山

納得してがまんしあう町予算

一、合併融和の促進をねらつた当面する旧町村の要望にもとずく巻町五ケ年計画を更に検討して旧町村の要望の重点をしぼり年次的の具体計画を公約し発足まもないだけに各地区に予算獲得の悲喜劇を繰り返さないように研究されてほしい

二、町予算の重点を生産文化、教育文化の両面にしぼり、乏しい中にも強力な施策と運営で各地区の幸福をたくらんでほしい

三、赤字財政の根源をたちきるために無駄を排して町政の円滑な運営をはかつて頂きたい。

新巻町連合青年団結成の胎動から誕生への準備が進められていることは喜びに堪えない。それにしても時期と方法を考究しないと新組織体の当緒の必要性がぼかされることがあるのではないかと懸念する。

第一に創立の時期であるが旧町村単位としての郡団加入への二年の期間は三十一年度末で封じられる。これについて論ずる紙数もないが、問題があるとすれば今やるか、この次の農閑期にやるかだけである。

第二の方法であるが新市に準ずる町として地域が広く、青年を包む環境が千差万別である。このような状態の中にあつて各青年団共総ての面に於ける異質性が認められる。嘗つて連合体か連協体かと白熱の論戦が展開された事も承知しているが、外面的の必要性より内面的な青年個々及部落団の意欲結集をより大事にしなければならないと思う。

(1) 性格と組織—数度の討議で連合体発足と決め、団則作成もそのように進捗しているときく、ただ組織の上で単位団の規模の大小は今後再編成されねばならない大きな課題であろう。グループ活動の推進のために適正な単位団の会員数は五〇名から百名位がよいと思う。

(2) 運営と事業—町部と村部を包含し、村部又地域差が大きい以上連合体の陥入り易い行事中心から指導性を打出す事が現実の緊要事だと思う。一例を挙げれば往時の弁論は「青年の主張」に変り産業部は4H方式に移向しつゝある。

(3) 財政—連合体の事業計画如何によつては単位団の主体性に影響し、主体性の一番問題にされるのは財政である。他団体との全面的な共催費依存は甚だ危険だし、自主的財源は何といつても三割位は必要ではないか理想から言えば五割確保といわれているが、以上簡単に記したが何れにしても他団体共通の人を得るか得ないかに帰結される。若し人を得られないとしたらみんなの力で人をつくつてゆくべき努力に踏出すことである。来るべき巻町青少年指導者講習会に期待し青年の意見に耳を傾むけたいと思う。町民も新しい青年団に注目していると思うし連合体結成に与かる諸兄姉の健斗を祈念する。

（巻町社会教育委員）

眞剣な問題

—青年団結成に望む—

越前浜 篠沢 進

私も一言

＊＊＊＊＊＊

大原宏司

二月上旬に降つた雪もほぼ消えて道路もどうにか通行に差支えないほどになりました。

ところがようやく乾き初めた道路の中央に消残りの雪をまき散らした処がたくさんありこれは車馬や歩行者に非常に迷惑であるばかりでなく交通事故のもとになりますから是非やめて下さい。みだりに道路上に障害物（この場合は雪）などを放ることは交通違反になるばかりでなく、違法以前の道徳の問題だと思います。自分の家の前の雪さえなくなれば公衆の迷惑などかまわないと言うような自己本位の行爲はお互いに慎しみ、私たちの町を村を少しでも明るく住みよい郷土にいたしましょう。

折角乾き始めた道路上へ残雪を放り出さないで下さい。

（北越自動車学校内）

祝成年

すくすくと伸び育つ童子

二十歳の春を迎えて国に盡せよ

五月院正月謹書

さゝやかな 成功の喜び

昨年十月末、秋の取蔭が終つたある日、久し振りに常会が開かれたとき、ふとした話題が問題となつた。

それは来年十九になる娘達の母親の話で、今年は作がよかつたから厄拂いには、娘に一揃い晴着をつくつてやりたい話から初まり、あの家では幾らの着物をつくつたとか、何々を新調したとかいう話であつた。厄拂いは、古くから村に伝わる年中行事で、十九になつた娘たちが二月一日、村の寺に集つて拂いをして貰う行事で、娘たちはきれいな着物を着て、御馳走を食べながら、一日楽しく過すのであるが、それがだんだん派手になり、競つて華美を追うようになり、母親たちの悩みの種であつた。これでは本当に若い人達にとつて何のためか、着物のファッションショーなのかわからない。

この問題を、生活学習グループの問題としてとりあげ、当事者及びその両親、婦人会などの数回の話合いがもたれ、この青年たちの熱意が遂に着物を新調せず、洋服に改めることに話が纒つた。

これだけのさゝやかな改善とは言え、農村に深く根を張つている因襲を、身をもつて体験し、その一つを共同の力で解決したことで自信を高めた。

いよいよ今年二月一日の厄払いの日、娘たちは申合せた洋服に威儀を正して式に参列したが、その朝、誰が贈つたのか、美しい十三ケのバラの花に、一封の手紙がそえられてあつた。このような感激的なエピローグをもつてこの改善活動は一応の終止点を打つたが、小さな望みの一つがかなえられた自信が、明るい村づくりに役立つてゆくことであろう。

（竹野町青年学級 生活改善グループ）

中郷屋 青年学級は毎週日、月、木曜日の外読書学習が十四日、二十四日と予定されている。

婦人講座は来る二十日沢栗さん宅を会場に生活改善講習を開く。講師は県の田代氏が予定されている。

成人講座は来る二十四日午後一時から建照寺を会場に「最近の国内情勢」について日報の森田さんからきく。

中央公民館 来る十七、八、九日の三日間松野尾小学校を会場に巻町青少年講習会を開催する。この講習会のねらいは、健全なる活躍をつづけている各青年団が更に高まつてゆくために、まだ幾多研究を要する問題が内蔵していると思われるので、これらの問題を青年が相寄りしつかり見極め話合いの中から解決への糸口とし、今後の発展を望んでいる。青年団の本質、運営、町政一般、その他団運営に必要な技術等、講師に日報の森田さん、町長さん、亀山主事を予定、連合体結成の機運高まつている現在、この講習に期待が寄せられる

角田 —四郷屋青年自治会—

去る一日団報「若潮」第六号を発行した。

—越前浜青年自治会—

自治会資金獲得事業として、アカシヤの苗木四千本を取つて純益六千円余をあげた。

正月、お盆になるとコンニャク、油揚の注文を取つたり、又地区の保安林の植林を青年会が引受けているなど活動資金獲得にも力を入れ、青年団のなやみ、財政を克服し力強い活動を展開している。

松野尾 —弁論大会—

去る一月二十二日午後一時から小学校に於て青年弁論大会を開催した。

参加者十二人

成績は次の通り

一等 河村一良 現在の農村をかえりみて

二等 斎藤ナミ 生活改善の道

二等 本間サイ 農村の結婚を改善せよ

—生花講座—

一月二十八日小学校で生花講座を開く、講師は婦人会副会長の山本さん。六十人が参加盛会であつた。

—碁、将棋大会—

来る二月二十日公民館で開く。

—小学校創立八十周年記念事業—

三月一日、二日小学校で開く、式典、祝賀会児童学芸会、記念講演会（金子、樋浦両博士）など。

巻文庫 新刊書五十余冊が入庫致しましたから一度お出で下さい

尚新刊書貸出について当分の間（今月一杯の予定）館外貸出を御遠慮願き、館内にて閲覧いただきますから御了承願います。

役場 —ねずみを駆除しましょう—

人口の三倍以上も棲息するといわれるねずみによる損害は年間一千億円といわれる。一般に家に侵入するものはドブ、クマねずみでペスト、腸チフス等の伝染病を媒介する。駆除法はねずみの出入口を金網でふさぐ、食物や残飯等完全に蓋をしておく。ぼろ布や紙屑は巣となりますからよく整理しておく又器具にはバチンコ金網製の篭があります、薬剤にもクマリン製剤、黄燐製剤などで小さな団子位にし人目につかぬところに置いておく。繁殖力が強く移動しますからねずみ退治は集団的、計画的に同時にやる事が一番効果的です。

御相談は保健所又は役場へ。

◎転入転出の届出

役場へ御持参願うもの

消費世帯は米の通帖、健康保険受診証、認印、生産世帯、健康保険受診証、認印、届出の際は行先を詳しく必要とします。町内、世帯内の異動も同様です

男女同権論

本間睜江

確か婦人雑誌だつたと思うが、連載物に「女は一人で歩けるか」と言うのがあつた。作者は林房雄氏である。私の予想通り結論は男性の支えなしには女は一人で歩けないということであつた。

テーマの底を流れるものは奥深いところで男女同権を凝視し女性の脅威、才気、勇気、慕情、知性を深く見つめて多角度な視野の広い面白いものであつた。

戦後私共に与えられた新憲法の最大の贈物は男女同権であるが、私共は何か立場の悪い時、行き詰つた時、又処置なしの場合等しばしば安易に男女同権を振りかざして切抜けることが多い。しかしこれでは女性の隠れ蓑としての男女同権であり、女性の零落のすがたでしかない。現在日本の教育の一つの紛れのない特徴は学校と社会の落差の大きさであるが、男女同権も又意図されたものと実際の受入れ方、理解に大きなへだたりが見える。

基本的人権において男女は確かに平等であるが実際は我家と言う小さき社会においてさえ決して主人と私は平等ではない。私は如何に爪立ちしても主人には及ばない、思想に於て社会感覚に於て、尚社会機構から見るならば経済的能力に於ても、女性はもつと謙虚に自己反省をし貪欲なまでに現在の状態からの脱皮を求め、その手取早い方法としてPTA活動の生活化あたりから足を踏み出し真の男女同権まで高めていきたい

私は教育研究会等に出席させていただく度に会を終えてひしひしと感ずることは男性側に対し女性側は常に熱意が薄く日頃の勉強の底が浅いために発表するデータがないこと、又陰では色々の疑問を持ちながら真に発表すべき場を与えられたときにその機会を利用出来ないことは真実に立ち向う勇気がないとも言えるが最大の理由は矢張り思想の根拠となる勉強不足が考えられる

この様な実際の経験による私共の内省を土台に女性自身の自覚と男性の温い理解と協力により女性の実のある前進が望しい。けれども私は物々しい一対一の肩々相摩する男女同権を望まない。日常にあらわす形としてはチエホフの「可愛い女」の主人公のように男性より一歩ひいて常に男性に愛される女性本来の女性になりたい。そして勉強と努力により実力を蓄積し実質に於て真の男女同権への段階を一歩一歩上りたい。

かくして天降りに与えられた「男女同権」に対する活殺の鍵は私共女性の手中にあり、この命題の中から又女性の話題を見出したいものである。（巻六区）

学習を主体とした青年團活動

昨年十一月二十四日より二十八日まで東京都日本青年館に於て開催された文部省主催関東ブロック青少年指導者講習会に参加させていたゞき、一都十二県の代表八十五名と共にわざを磨き固く手をつなぎ、その固い団結の中より湧出る前進の足音は高らかに代々木の森にコダマし、良きリーダーあつてこそ善良な青少年が育つものであり、現在行われている事業型青年団から一日も早く脱皮し学習を主体とした団活動に改革しなくてはならないと痛感致し帰つて参りました。

この講習会は青少年団体指導、読書指導、音楽美術指導、教育キャンプ屋外活動指導の四部会に構成され、私は第一部会の青少年団体指導に入りました。

まず第一日より第三日午前中まで、ボーイスカウト日本連盟理事長久留島秀三郎先生の「青少年の指導精神」文部省社会教育官高橋真照先生の「今日の青少年の特性と指導原理」教育大学教授平沢薫先生の「地域社会に於ける青少年団体の役割」YMCI永井三郎先生の「グループ活動の進め方」という四点から講義がなされ第三日午後から第四日夜六時まで共同研究がなされ第五日午前中は毎日新聞運動部次長大島鎌吉先生の「欧州各国の青少年団の現況」を聞く対談と全体研究があり午後一時より閉会式にうつり、閉会式後は全員はとバス二台に分乗し東京見物と松本幸四郎、市川猿之助、中村時蔵共演による芸術祭参加歌舞伎を鑑賞致しました。この四泊五日を通じての一番山場である共同研究は十二時間にわたり熱心に討議され、いつものような分科会のための討議でなく、自慢話や只きれいごとを並べることをやめようと先ず申し合せをやり、地域の青年の一人々々が果してどんな環境にあり、どんな考えをしているか、どんな問題を取り上げ如何に運営して行くべきか、そして更にもつと自分達の立場をよくみつめて討議を進めようということに致しました。

問題点としては財政の問題、団員意識の問題、女子団員の問題、リーダーの問題、事業の問題、青年学級の問題等数多くの問題点について話合われ、青年団活動がたゞ郡団あるいは県団といつたような上部団体にだけ空廻りをし、未端に於ける地域青年団だけが未だ前近代的な殻の中に取り残されている。まずもつてそれらの青年団を一日も早く近代的ないわゆる生活、生産と直結した青年団、更に生活、生産活動を推進して行く上にぜひ必要な学習機関を設けた青年団にもつて行くべきであると固く誓い合い共同研究を終りました

（竹野町　本間昭一）

正月に思うこと

正月は誰にいちばん待たれていたであろうか▼われわれの子供の頃の正月はたしかに子供にとつていちばん待たれたものであつた▼真夜中に起きての買い初めに始つて天神講に終る二月いつぱいの正月行事は今思い出しても楽しさそのものであつた。だが今の子供たちにはこうした行事は全て失われてしまつたようだ▼しかし失われても悔のないそれに代る、それにまさる楽しみが、彼等にはふんだんに与えられているのだ▼では正月をいちばん待つているのは誰であろうか▼それは十五日から来月の初旬までも実家にいつて悠々「じゆんのび」出来ない彼ら嫁たちではあるまいか▼もしこの私の推量があたつているとすれば、なんとわびしく悲しい話でないか▼子供たちは正月を失つた▼嫁たちにも早く正月を失わせたいものである。

（斎藤順作）

村里記

永井不二夫

よべあれし雪おさまりて角田より西につらなる山かがやくも
雪なぎて積まではれぬ里人の町にいずる多し薪背負うあり
うちひびき吹雪つのればこの家に寝ね難くして妻子らと居り
かけるごとく降り来し雪の過ぎしかば山はひとゝき夕映えにけり
雪降れば乏しくなりて今日もまた雀いく羽も室に入りにけり
雲間より照る陽ななめにひろがりて降る粉雪のかがやきてみゆ

（歌集「暁雲」より）

うすれゆく正月の香

新生活運動は、どこ吹く風と農家は旧態として二月正月を迎えた。

三十一日の歳夜は塩引、コンブ、豆、油揚などの料理で年を送る。元旦の寓詣り、三日迄は年始、七日は七草、十一日蔵開きといつて雑煮を祝う。

十四日の夜まゆだまを飾る。子供のある家は、今でもやつている。

十五日からは、子供達にとつて楽しい小正月に入るのだが、もとは、さいの神の勧進もぐらもち追い、成木責などの農耕儀礼が、異色ある行事として行われて来たが、今は全くなくなつた

へさいのかみの勧進だ
銭でも金でもざくざくと
（さいの神勧進）

へよこづちどんのお通りだ
もぐらもちここにいたか
隣屋しきへぴよんととべ
（もぐらもち追い）

へなるかならぬか
ならぬとたつ切るぞ
（成木責）

やがて二十日正月を最後に、正月の気分もだんだん薄れてくる。

煙草の種入れなどから、農家は心せわしくなつてゆく。

だが、まだまだ吹雪く日も多く、そのつど炬燵におちつくが、雪に暮れる夕べ町を流してゆく豆腐屋の笛の音色——。なぜかしら春がしのばるゝ此頃である。

原稿募集

町民の声（ろばた）
婦人の声・随筆
小品文・短歌
俳句・詩
その他
宛先　発町中央公民館内編集部